

# 対話でつなぐ授業 一考察

岩瀬 竜弥

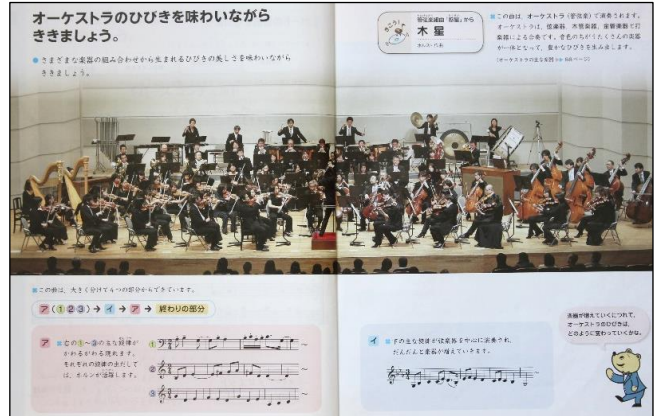


## 指導員訪問② 6年 音楽科

### 「いろいろな音のひびきを味わおう」 岩月 聖将 教諭

鑑賞の授業、評価はどうあるべきか。岩月教諭は iPad を個々に持たせて「木星」の鑑賞に浸り込ませる提案授業に臨みました。本時の授業では、「要素を聞き取り、それらが生み出すよさや面白さ」「要素の関り合いや楽曲の構造を理解」して聴くことができたかが目標です。

iPad には、木星（3部構成の最後の部分）の音源とそれにとともうタイムカウントが表示されます。各自で聴きながら、曲想が変わった



iPad を使って繰り返し聴く子供たち

C1 : 22 秒、それまでは静か。その後は、バレードのようになった。(T どうして?) 大きくなったから。  
 ……<略>……  
 C2 : 23 秒ぐらい、A 君 (C1) と同じところ。でも感じ方が少し違う。違う楽器が入ってきて盛り上がって大きくなった。 (授業記録より)

ところ、どのように変わったのかなど、気になる部分を何度も確認できます。個々の学びを大切にしたい支援です。

岩月教諭は、大学生時代、公務員を目指して勉強していました。教育実習では2年生の子供たちと出会いました、目の前の子供たちが短い期間で変容する姿に、実習最終日「俺の目指すべき仕事はこれだ！」と教師を志したのでした。子供に寄り添う姿勢はここで生まれたと思います。

さて、曲想を「音色」「速度」「リズム」「強弱」「音の重なり」「旋律」など要素による視点のずれを軸にして、時間、構造、表現を関連付けてクラス対話へ。  
 「2' 17 ゆったり落ち着いた」(速度)、  
 「2' 32 強く激しい」(強弱)、「1' 42 音が下がって悲しくなった」(音色)・・・

どう曲想が変わったのか続けました。中には「ぱっと明るく感じたので、妖精が踊っているような」と表現する子も。今回、板書も時間軸と要素別で構造的に可視化し、同じ思いや上の授業記録のように違う視点もはっきりさせました。みなさんならどう展開しますか。協議会では、C2を受けて、ここで立ち止まり**焦点化**する意見がありました。私も「違う楽器が入って、どういうこと？」と全体に問いかけます。子供たちは手元の音源を再確認して、楽器の種類や他の要素へと広げるでしょう。

曲想と音楽の構造との関わりについて気づき、理解を深めた子供たちが、再度「木星」の、さらに「惑星」のよさやおもしろさへと広げていくでしょう。

